

平成27年12月8日（火）

（午後3時55分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番13、4番 今城君。

〔4番（今城敏仁君）登壇〕

○4番（今城敏仁君）あと少しでございますので、皆さん、一番疲れているころやと思います。きょう、朝出るときに、トイレに座ってしまして、旧暦のカレンダーを見ておりますと、閉塞成冬と、冬期強まり、人も生き物も万物皆閉じ塞がるころということを書いてございました。それにしてはあったかいです。今年はまだ多分、暖冬やなというふうに思うんですけども、暖冬のほうが過ごしやすく、我々、年のいった者にはありがたいことでございます。

それから、皆さん、朝、多分、新聞を読むときは、どちらから読めますか。私は昔から、先にテレビ欄を見まして、きょうはどんなスポーツがあるのかなというのを先、チェックして、それから、三面記事を見て、和歌山版に入って、それから、スポーツ欄を見て、文化欄、それから、経済欄、国際情勢、ほんで、一面に大きいニュースがあるときは一面を見るんですけども、ここ3カ月ぐらい前から一面から見るようにしたんです。一面から見て、それから、国際情勢を見て、ずっとおりにきますと、また違う世界といいますか、いろんな切り口があるんやなというふうに見えるわけです。ぜひ、癖でここから見るというふうにはなっておると思いますけども、いっぺん逆から見たら、また違うものが見えるかもわかりませんので、ぜひ、私だけかもわかりませんが、試してみてください。

そして、ここ1カ月ほどで、ニュースの中で、フランスのパリでISのテロがあったとか、大きい事件はあったんですけども、国内のニュースの中で、二つほど、とても興味のあるニュースがございました。

一点は、ミドリムシでジェット燃料をつくるということで、ユーグレナという会社が横浜に30億円で、2018年から操業しまして、2020年の実用をめざしている。これはミドリムシのバイオ燃料を使うということらしゅうございます。これはまた、それこそ、全日空、それから、いすゞ自動車、いろんな大手もこの燃料を使って、ジェット燃料といっても灯油に近いものやというふうにお聞きしていますけども、また、いろいろな形で進歩していくんやなというふうに思ったわけでございます。

また、そして、三菱がMRJ、三菱リージョナルジェット、これ、国際初のジェット機でございます。昔はYS11があったんですけども、このジェット機が飛ぶの、11月11日でしたか、テレビで見たときは大分感動しました。飛んでいる姿が、昔あったコンコルドにちょっと似たような感じで、これがまた、産業、裾野を、自動車とともに広い産業構造がありますので、地域にとってはいろいろ、日本の持つ技術を大いに生かして、これからこの業界も発展してほしいなど。聞くところによると、だいたい、世界で5,000機ぐらいの需用があるそうでございます。

結局は、地域間を結ぶコミュニティジェットということらしゅうございます。これが、だいたい2021年に納入されるということで、あと五、六年しますと、地方間の移動がかなりスムーズに行われるんじゃないかというふ

うに思います。

それで、こんな話を、きのうしてございましたら、今、テレビで「下町ロケット」ですか。ご覧になっていますか。これの話をしていて、この下町ロケットはロケットの部品をつくっているらしゅうございますけれども、この技術力、日本、これが、ますますそういうところにも頑張っていていただくと。それと、この「下町ロケット」の、今、僕はそんなに見たことがないんですけども、たまたま、今度は、人工弁ですか、それを繊維でつくるということで、私が昔、行ってた福井にあります、福井経編というところがモデルになっておるそうでございます。こうやって、いろいろと技術が進歩、また、発展していくことは、この国の持つポテンシャルやというふうに思います。

以上で、議長のお許しを得ましたので、通告に従いまして、質問に入らせていただきます。

一番目といたしまして、地域の持つポテンシャルを生かしたまちの活性化について。紀の国わかやま国体、全国障がい者スポーツ大会も、国体推進室を中心として、大会関係者、ボランティアの皆さんの協力のおかげで、成功裏に終わることができました。たくさんの方々が全国よりお越しになり、いろいろな思い出をつくって帰られたことと思います。開催地として、学びはたくさんあったと思いますが、この経験を生かして、今後橋本市のポテンシャルを生かしたまちの活性化をどのように考えていますか。

小さい項目の1番として、スポーツ競技大会を開催する計画は。

2番といたしまして、文化イベント等についてはどうですか。

大きい2番では、高野口こども議会における、市政に対する要望提案について。

18番議員も、大きくこども議会の開催の件でご要望をしていただきました。この9月12日に、高野口地区公民館において開催された高野口こども議会では、高野口中学校、伊都高校、伊都中央高校、紀の川支援学校の皆さんたちがそれぞれの活動報告を発表されました。各テーマ、生徒会活動、介護福祉、リンピア作戦、清掃活動、プルタブ集め、将来、この地域を支える社会の一員として、住みよいまちづくりについて提案してくれました。

まず、高野口中学校の生徒は、通学路の清掃、また、こどもスマホ宣言、伊都高校、伊都中央高校の生徒は、介護福祉。介護福祉なんですけども、彼らは今、このように高野口バリアフリーマップということで、「みんなで心地よい街に出よう！in高野口」ということで、介護福祉の授業を受けている生徒8人で、11月から高野口町内を車椅子等で歩きながら、バリアフリーマップを作成しています。障がい者の方や高齢者の方、妊婦さん、みんなが心地よく生活していけるようにしたいと思っています。もしかしたら、お話などをお聞きして、実際に車椅子で店内を利用できるようにお願いすることもあるかと思いますが、ご協力よろしくお願ひしますということで、車椅子を使って、まちの中を歩いていただいて、バリアフリーマップを作成していただいております。

それから、伊都高校・伊都中央高校のリンピア作戦というのは、今年の4月27日から、リンピア作戦2015ということで、毎月1回、時間帯は3時30分から16時30分、4時30分まで1時間、清掃活動をさせていただきます。リンピアはスペイン語で、掃除をしようという意味です。晴れの日にはリンピア、伊高通りから高野口駅までの清掃活動をさせていただきます。雨の日にはスクールリンピアといって校内清掃をしているということでございます。

それから、紀の川支援学校は、共生のまちづくり、プルタブ集め。このプルタブは、皆さんご存じやと思うんですけども、アルミ缶等の引っ張るところのプルですね。これを集める活動をされておるそうです。これを、今後いろいろと、いろいろな公共場所等に設置してほしいという要望がございました。

この生徒たちの意見、提案を、当局としてはどのようにくみ取り、市政に反映させてくれますか。

以上二点を、壇上からの質問、これで終わります。

○議長（中本正人君）4番 今城君の質問項目1、地域の持つポテンシャルを生かしたまちの活性化に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）地域の持つポテンシャルを生かしたまちの活性化についてお答えします。

まず、一点目のスポーツ競技大会については、全国規模の大会を誘致して、本市の存在をアピールするとともに、国体開催で培ったおもてなしの心で来市された皆さまに接し、観光客の増加につなげていくことは大切なことと考えています。本市において、全国規模の大会を開催を想定してみますと、まず、会場の規模・設備が問題となり、本市単体で全国規模の大会を受け入れるには、現有施設では、収容能力に限界がある上、そうした大会を誘致した場合、大会役員、選手、応援者、その他関係者の宿泊施設の確保が問題となります。このことは、国体開催においても大変苦慮され、高野山宿坊や近隣府県でその不足分が補われました。

こうした現状を踏まえますと、全国規模のスポーツ競技大会を本市に誘致するのは残念ながら難しいかと考えます。

続いて、文化イベントについてお答えいたします。本市において全国規模の文化イベントの開催は、スポーツイベント同様、会場・宿泊施設等の問題があり、現況では、開催は困難であると考えます。また、本市のポテンシャルを生かしたまちの活性化については、本市の各地域でも取り組みが行われており、隅田地区の門前市、橋本・紀見地区のだんじりパレード、高野口地区の歩行者天国などがそれに当たるかと考えます。

いずれも、地域の皆さんが中心となって、その地域の特質を生かしながら、地域の持つ力を発揮する取り組みが行われているものと考えています。

また、本市では、高野山開創1200年を契機に、高野山への登山口として発展してきた歴史を踏まえ、本市賢堂を起点とする高野参詣道黒河道を世界遺産に追加登録されるよう精力的に取り組んでいます。

さらに、前畑秀子朝ドラ誘致実行委員会を本年6月に立ち上げ、積極的に活動をいただいているところですが、これらが成就しますと市外からの来訪者の増加も見込まれ、橋本市を全国発信できる絶好機になると考えます。

今後もこうした機会をとらえながら、本市への来訪客が増加するよう本市の魅力を高めていきたいと考えています。

○議長（中本正人君）4番 今城君、再質問ありますか。

4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

今、全国大会等は難しいということでございますけれども、私、質問自身がざくっとしていますので、このような答えが返ってくるというのは、だいたい予想いたしておりました。まず、何を、なぜ、誰が、いつ、どこで、対象をいくらで、予算で、期間はいつからい

つまでやるというのが、これ、基本的に物事を組み立てるときの順序やと思います。

そこで、いろいろ、私自身は全国大会どうこうというよりも、この地域にいろんな人が来ていただく交流の場が、今回の国体の準備室が、去年、おとしぐらいから始まって、いろんな経験をされていますので、この経験を生かして、この地でいろんなイベント等ができればええなということも思っていたので、大枠でこういうふう質問したんですけども、たまたま調べておりますと、ここのエリアでもできるようなスポーツイベント等が、これは橋本市が主催するのか、各スポーツ団体なりに我々、市当局がバックアップしてエッセンスを振りかけるのか、その辺はあれなんですけども、二つほど、そういうふうな、こちらでもできるのではないかというふうな大会がございます。

一つは、関西ワールドマスターズゲームズ2021、これはアジア初の世界大会が開かれるそうでございます。これはマスターズですから、このサッカーをしていた人に聞いたんですけども、今年は日高町で行われたそうでございます。その前は上富田町、この上富田町は、ご存じのように、サッカー施設がかなり充実しております。でもまた、今年は日高町でやったんですけども、なかなかいい大会やったというふうにお聞きしております。ですから、このように、一つはそういうふうなことも、これは予算も絡んでくることですので、きょう言うてあしたというふうなわけには行きませんが、これだけいろんな方にボランティア等々、いろんな方が協力して、和歌山国体を盛り上げて成功したのですので、これを引き続き、いろんな形で、よその人が来てくれて交流していただくというのは、大事なことではないかと思えます。

それと、先ほど、次長がおっしゃったよう

に、ウィークポイントがわかっておるんですから、多分、宿泊施設がない、競技場はそんなに大きい大会をしなかったら、僕はクリアはできると思うんですけども。それこそ、宿泊施設がなかったら、今回と一緒に、高野山で場所をお借りするというのも一つやと思います。

それと、いろいろな、これからはいろんな考え方がまたできると思います。宿泊施設等も、今は、これは外国人のインバウンドのための国も法整備をして、2020年までのオリンピックには、外国の方のお客さんの泊まる場所がないということで、民泊というところを進められておると思います。

きょう、朝、出かけに、ちょっとテレビを見たら、東京の大田区が、それをまずやるというふうなニュースが載ってございました。それとか、この地域もやっぱり、そうやっていろんな方に来ていただくのには、ルートイン、ゆの里、それから、紀伊見荘もありますし、五條市にはホテルもあります。それから一つ、特に外国で、アメリカのサンフランシスコか何かから始まった、エアビーアンドビーという宿泊施設のやり方があると思うんです。

この地域も、空き家もありますし、ちょっと形を変えることで、そういう方がお泊りになる。また、中長期に泊まれるゲストハウスなんかもつくっていけば、もっと他所から人が来て交流できると思うんです。そやから、今回のこの経験で、どんなところが欠けてるのかなというふうなことがわかったんですから、そこを、そんなに、今、緊縮財政の折ですので、みんなの知恵を出して、いろんなことをやっていくというふうなことが大事ではなかろうかと思うんですけども、まず、平成31年に、これは全国健康福祉祭というねんりんピックが、まだ未定ですけども、和歌山県

で開かれるということでございます。

ゲームを誘致して交流するのも一つですが、この健康という、マスターズは50歳以上ですか、やっぱり健康の増進というところの切り口から言ったら、こういうことをすることによって、またそこで人と交わることで、心の充実、他所の人と交わることで、違う喜びもあろうかと思えます。今、ちょっと調べただけでも、このようなスポーツイベント等がございます。その辺のところはお調べいただいで、いっぺん前向きに検討していただけますか。

○議長（中本正人君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）教育委員会でどこまでお答えできるのかというところで、非常に頭を悩ませながら考えておったんですけども、今回、サッカーでいいますと、国体を開催されるというところで、なでしこリーグの公式戦が橋本の運動公園、サッカー場で開催されました。これ、非常に橋本市をPRできるイベントとなったというふうに考えております。その後の国体ということも含めてになりますけれども。こういった女子のサッカーの公式戦が引き続いて橋本市の運動公園で開催されれば、非常にありがたいことであるというふうなことは考えております。

また、宿泊施設等いろいろ問題はあるんですけども、橋本市でも、例えば、全国規模ではありませんけれども、県立体育館を使って、ハンドボールの大会が実施されたりしております。そういったものは、引き続いて、お願い、誘致をしていきたいというふうに思っておりますが、今、現状は、合宿にしる、学生の方が多くありまして、宿泊施設としては、かつらぎ町にあります、紀北青少年の家に泊まられて、橋本市の体育館で大会を実施するというようなことで運営されてございます。

我々、教育委員会として、今持っておる施設を有効に使っていただいて、橋本市をアピールしていくということは、非常に重要であると考えておまして、民間の力も借りながら、そうした誘致に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

平成25年、26年と、ご存じかと思えますけれども、運動公園の多目的グラウンドを中心に、リレーマラソンというのが開催されました。これは近畿各県で実施する、その中で、和歌山県では橋本市が選ばれて、2年間実施されて、我々も一生懸命、そのことを、後面から応援してきて、引き続いて実施していただけたらなということで期待しておったんですけども、今年度は、残念ながら、開催されるというような連絡はいただいております。

しかし、そうしたことも含めて、民間の力も借りながら、今ある施設を有効に活用できるようなスポーツ大会を誘致していくというのは、教育委員会として積極的に取り組んでいきたいと思っております。まだまだ広報活動も少ないと思っておりますので、その辺も含めて一生懸命取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

それと、これは、ちょっとユーチューブで見たんですけども、デモンストレーションスポーツで、ソフトバレーボールと庭球野球T E-Y Aというのをやられたとお聞きしています。あれを見ておますと、体育館の狭いスペースで、昔、我々がよくやった三角ベースボールですか、それを競技としてやられておる。これなんかはまた、昔、ゲートボールで、三世代ゲートボール大会というのはよくあったんですけども、いろんな世代がそこで一緒にやれるんじゃないかというふうに思いますので、これは、青年会議所がやったんで

すか。僕、ちょっとはっきり知らないんですけども、こんなもまた、できたら、いろいろと、これは市がやるんやなしに、そういう若い人たちがやるのを我々が投資していけば、また、三世代が交流したスポーツ大会になるのではないかなというふうに思います。これはお願いでございます。

それから、この和歌山大会も10月24日から、全国障害者スポーツ大会というのがございました。この障がい者のスポーツ、皆さん、ご存じのように、中村智太郎君が、平泳ぎと自由形で2種目優勝されました。この障がいのある方々が、いろんな形で、やはり、この地域のスポーツ大会と一緒に出てもらって、みんなとスポーツを楽しむ、障がい者の方だけのスポーツ大会もまた、やっていただけたらありがたいんですけども、結局、そういう中村智太郎君、この間、紀見北で講演会があったのを聞いてきたんですけども、やはり、彼があそこまで来るには、彼の資質、努力もありますけども、親御さん、コーチ、周りの人たちのサポートが、彼をあそこまで立派にしたんやと思います。我々といたしましては、やはり、もうちょっと障がい者の方のスポーツに目を向けて、お互い、それこそ共に参加、共につくっていく、そして、支援していくというのが大事ではなからうかと思うんですけども、その辺のスポーツ大会等については、どのようにお考えでございますか。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）障がい者スポーツ大会ということで、非常に答えにくいんですけども、先ほど来、一般のスポーツ大会についても、会場の規模、設備、あるいは宿泊施設等のことだという答弁をさせていただいたと思います。さらに、障がい者スポーツ大会となりますと、さらにまだ課題があるということだと思えます。

例えば、四肢の障がい者の方々には、施設のさらなるバリアフリー化でありますとか、そういう競技大会を行うときには、あるいは、移動手段の対応等が求められる。あるいは、視聴覚障がいの方々には、ほぼ1対1の介護者が対応が求められるとか。あるいは、聴覚障がい者には手話通訳者とか、要約筆記等の対応も当然、準備せざるを得ない等々で、現時点の現状を考えれば、本市、そういう大会の開催知識とか経験も少なく、必要となる情報の集積、蓄積も今後必要になってくる。それでありまして、先ほど来のハード面の準備、あるいは、スタッフの確保等々で、非常に難しい課題があるのかなという感触を持っています。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）そのとおりやと思います。しかし、今、この地域にある、そういう障がいのある方の対象として、いろいろ、スポーツ参加を促す。促すというよりも、これは、ちょっと調べましたら、世界保健機構が2001年にICFという形で、生活機能・障がい・健康の国際分類というところで、先ほどもしましたように、参加の制約をなくすということで、いろんな大会に障がい者の方も一緒にかかわっていくという重要性を説いてございます。

ともに参加、ともにつくっていく、支援していくという意味で、橋本市は、障がいのある方に、人にやさしいまち、そういうまちやでというふうなことを思っていたらいいような、そういうふうな施策で、障がい者の方のスポーツ大会等々を、ぜひ、やっていただきたいんですけども、これは各いろんな介護施設等々もあると思うんですけども、そこは、介護施設、介護施設ではいろいろやられているんですけども、全体でそういうふうな、10月に行っている市民スポーツ大会みたいなこ

とがないと思うので、そういうことから始めてもいいんじゃないかと思しますので、ぜひ、その辺のほう、よろしくお願ひしたいと思うんですけども、いかがでございますか。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）議員ご質問の趣旨等々、まさに有意義なことではあるかと思ひますが、実際、着手となりますと、あまりに問題や課題が大き過ぎるのかなというところで、現時点では、ちょっとこれは難しいのかなというふうに考えます。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）難しいというよりも、やっぱり、前向きに取り組んでいただきたいということでございます。障がい者の方も二つに分かれるというふうに、視聴覚障がい者の方はパラリンピックには出られないんですか。デフリンピックという形で、やはり、視聴覚の悪い方は、また違う形でやられるそうでございます。あとの身体障がい者、精神障がい者、いろいろな障がいのある方は、一つのパラリンピックなんかも、そこでは出られるんですけども、視聴覚障がい者というのは、それこそ、ちょっと違うということ、これはちょっとかじっただけですので、僕も今後、また、このためにいろいろ調べて、ぜひそういうふうな、この地域の中でも、そういう方のみんなが集って楽しめるスポーツ大会等が出きたらええなというところで、いろいろと勉強もしていきたいと思ひますので、無理無理と言わんと、ぜひ、考えていただきたいと思ひます。いかがでございますか。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）ちょっとお時間をいただいて、一度、勉強させていただきます。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

私も、それこそ、また勉強させていただき

ますので、その節はよろしくお願ひしておきます。

それから、やはり、物事を組み立てていくときは、さっきも言いましたように、私、感覚的な人間ですので、今までそんなに詳しくというか、理論立ててしていなかったんですけども、やはり、何を、なぜ、誰が、いつ、どこで、対象を、いくらで、予算で、期間を考えて組み立てていくということ、私もこれから、この一般質問等についても、そのような形で一般質問させていただきたいと思ひます。

それから、文化イベント等についてでございます。

先ほど、1番 松浦議員の質問の中で、これは企画部長ですか、歴史文化杉村公園について、魅力ある公園、市街地よりたくさんの方が来ていただいて、憩いの場としたいというふうにおっしゃってございましたけども、本当に杉村公園は、僕も昔、よく行ったんですけども、憩いの場になるすばらしいところと思ひます。

それとともに、今回、国体イベントのあった期間に、これは県の主催やと思うんですけども、芸術祭として、WAKAYAMA SALONE 2015ということで、9月13日から10月12日まで、「旅するように。」ということで文化イベントをやってございました。

これは、和歌山のイオンモールから、加太のオレンジハウス、和歌山の旧西本組本社ビル、まえがみ美容室、喫茶ピュア、和歌山あしべ屋妹背別荘、田島漆店旧工場、これは黒江の煉瓦堂というところですね。それから、高野口では、葛城館、高野山では梵恩舎と。

議員の皆さんの中でも行かれた方はいらっしゃると思うんですけども、あの葛城館で1週間、それこそ、大阪の画家の方やっと思ひますけど、女性の方の展示をして、1階

から2階に上がって、各部屋に彼女の作品を置いていただきました、3階まで。なかなか、僕も2階までは、昔は、消防の出初式の後の新年会でよく上っていたんですけども、3階まで上らせていただいて、やっぱりすごい、ある意味、遺産を残していただいているなというふうに感じました。こういうふうな葛城館であるとか、これはもう、あそこは個人の建物ですので、我々がどうこうすることはできませんけども、持ち主の方とお話ししていると、あれを維持管理していくのは大変なんやと。いろんな形で、こういうふうなイベント等々で人に来ていただいて、ちょっとでも、あれを維持する維持費が出たらいいんですよというふうなお話しされていました。

商工観光課のほう、また、県のほうも、いろいろとご協力いただいて、あれを残すために、いろんな施策、補助金等もご苦労いただいておりますんですけども、やはり、高野口町、橋本市の文化遺産やと思います。そして、それをそのまま置いておくのではなしに、やはり、それを使うというところが、一番の大事なことやと思いますので、あそこを、我々としても、高野口の駅前が一番の出発点でございますので、その地域に住んでいる人がやはり、その気になって、我々がどういう形でバックアップできるかなというところで、これは、経済部長、よろしいですか。すみません。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ただ今、議員からおただしがありました、去る10月に文化イベントとして、葛城旅館を開放して、美術イベントが開催されました。これ、実は、私も行って来たんですけど、非常に人気を博しております。同時期に、駅前の歩行者天国もやっております、これも前田邸を一般開放しまして、これは市外、県外の方、かなり訪ね

て来られていました。

本当に高野口の駅前というのは、この葛城旅館であったり、前田邸であったり、高野口小学校であったり、本当にいろいろ資源として発信できるものがたくさんあるかと思えます。そして、そこに加えて地場産業のパイル織物、こういったものがありますので、できるだけこういう観光のポジションを上げていくような、ポテンシャルを上げていく、そういった施設を、できるだけ生かして、今後イベント等に繁栄させていただけたらなと思っています。

なお、参考に、県もかなり積極的にいろんな取り組みを考えていただけておりまして、これ、伊都振興局の政策コンペで、県内の各振興局から一つずつ、知事に審査していただく振興局コンペがあるわけなんですけど、ここでも、パイル産業と歴史的建造物で高野口ブランドを発信、こういう事業を近々、提案、県のほうからしていただいて、できるだけ採択していただけるように、振興局のほうも取り組んでいただける、そういう状況であります。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

ぜひ、そういう形でバックアップ、行政がエッセンスを振りかけることで、維持管理費がちょっとでも出ればなというふうに思っております。そこで、あそこで、持ち主の方をお話ししていたんですけども、えらいもんで、1週間、あの事業を、とても一月はできないということで、1週間だけあけさせていただきまうと言うていましたら、それをラジオで聞かれた和歌山の90歳のおばあさんが、ぜひ、葛城館を見たいということで来られたとか、宮城県の方が、こちらの関西地方に旅行に来られていて、神戸でそのようなニュースを見聞きして、ぜひ行ってみたいということ



で、葛城館へ来られたそうでございます。

我々、近くにあり過ぎてありがたさがわからないんですけども、やはり、葛城館というのは、建物ができた時代から、100年、この年月がたつとる間に、いろんな人が名前を知っていて、懐かしく思っやってきてくれたということでございますので、前田邸、葛城館、高野口はババタレ坂を下って、あの方向へ行って、高野口の小学校へ行ってもらうという、一つの人の流れの仕組みを考えて、人との交流をつくっていくことが、また、地域の活性化になると私は思います。それぞれが、高野口は、そういうところがいいところありますし、それぞれ、先ほどの杉村公園もそうですし、恋野は恋野で、似賀尾池周辺は、僕、この議員になってはじめて行ったんですけども、なかなか風光明媚ですごくいいところやなど。そういうところをもっともっと利用してといますか、この地域に人が交流していただけるようなところになれば、この地域はもっと活性化、もうちょっとないないと言うておるよりも、前向きな、ポジティブな考えで、そういうところで活性化していけばいいんじゃないかと思ひます。

前の9月のときも言うたんですけども、例の海士町のあそこのところに載っていたんですけども、地域の活性化の源はやっぱり交流にあると。地域づくり、まちづくりの原点は、究極人づくりであると。そこにまたかかわっていく人が、輪が広がっていくことが、この橋本市がよくなることやと私、信じておりますので、ぜひ、当局のほうも、いろんな形でまた、いろいろな団体、また、いろいろなスポーツクラブと、いろんな協働して、この地域を元気にするように、私も頑張ってまいりたいと思ひますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、これで1番のほうを終わらせて

いただきます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、高野口こども議会における市政に対する要望提案に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（小林俊治君）登壇〕

○教育長（小林俊治君）9月に開催された高野口こども議会は、昨年度、高野口地区公民館で開催された地域の住民による地域シンポジウムを受けて、子どもたちの意見を聞いてはどうかとの考えのもと開催されました。

当日、子どもたちは熱心に議論を交わし、次のような市への意見等がまとめられました。

①文化祭の衣装をつくるのにごみ袋を使わなくてもよいよう、学校予算を増やしてほしい。

②クラブ活動などで帰宅時間がおそくなるので、防犯灯や防犯カメラを設置してほしい。

③市政について市議会議員に学校で講義をしてほしい。

④自分たちでバリアフリーマップを作成するので、市政に活用してほしい。

⑤リンピア作戦（リンピアとは、スペイン語で清掃活動のことをいいます）。リンピア作戦で集めたごみを回収してもらうと同時に、活動の輪を回覧板や市のホームページなどで地域に広めてもらいたい。

⑥プルタブ集め活動（缶飲料のプルタブを集めて電動車椅子等と交換し、福祉施設などへ寄附する活動）、このプルタブ集め活動の普及のためのポスターづくり、各学校への協力依頼、郵便局や銀行、スーパーなどにプルタブ入れ設置の協力依頼に力をかしてほしいといったものです。

今回の高野口こども議会で出された意見等については、今後の市政運営の参考とさせていただきます。

○議長（中本正人君）4番 今城君、再質問

ありますか。

4番 今城君。

○4番(今城敏仁君)ありがとうございます。

あのときは、教育長もお見えになっていたんですよね。聞いていただいております。若い彼らがいろんな形で、この地域と接点を持って活躍してくれております。これはもう要望ばかりになりまして、今、それこそ、教育長がおっしゃっていただいたような市政への要望があったわけでございます。

特に、ごみ拾いするときには、ボランティアとして、ピンクのボランティア袋等が欲しいとか、いろいろありました。これ、また、教育長のほうで、ぜひ、その辺のところを、また、どの課に言うていくんかわかりませんが、ぜひ、彼らの意見をくみ上げていただきまして、彼らは、やっぱりどもは、国の宝といいますか、やはり、この地域にまた、残っていただいて、この地域を支えていく彼らがやる気を出すように、また、市当局としても、この要望をぜひ、いろいろな形で、要望だけに終わらず、形にしていきたいというふうに思います。これはもう要望ですので、もう皆さんもお疲れやと思いますので、だいたい50分。

この間、たまたま文教のほうで、学文路の中学校と西部の中央中学校に給食をよばれに行っただけなんですけれども、どっちか忘れたんですけども、学文路でしたかね。これ、今、ち

よっと、スポーツで脚光を浴びてきた、それこそラグビーの言葉なんですけども、ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン、1人はみんなのために、みんなは1人のために。いい標語が書いてあるなと感じました。ぜひ、そういうふうな気持ちを皆持って、1人はみんなのために、みんなは1人のためにと、そういう気持ちで、市当局の方も、また、我々議員も、そういうふうな気持ちで市政に取り組んでまいりたいと思います。

以上で終わります。ありがとうございます。

○議長(中本正人君) 4番 今城君の一般質問は終わりました。

---

○議長(中本正人君) お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会し、明12月9日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(中本正人君) ご異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

本日はこれにて延会いたします。ご苦労さまでした。

(午後4時43分 延会)